

## 環境及び衛生管理

### 並びに安全管理

- ◇ 保育園における消毒
- ◇ 手洗い
- ◇ プールの衛生管理
- ◇ 事故防止マニュアルの整備と事故予防
- ◇ 施設安全点検表1, 2, 3
- ◇ 交通安全
- ◇ 避難訓練
- ◇ 保育園における不審者対応について
- ◇ ヒヤリ・ハットの記録について
- ◇ ヒヤリ・ハットの記録
- ◇ 体力作り年間計画
- ◇ 睡眠チェック表
- ◇ 事例検討（様式）



# 保育園における消毒について

消毒に頼りすぎてはいけません。消毒を使えば、全ての悪い微生物が死滅してしまうように考えがちですが、消毒の効果は絶対ではないことを忘れてはいけません。それよりも、よくこすって洗い流す方が効果的なこともある。必要な時に正しく消毒を使うようする。

## 1. 消毒について

- (1) 日常において、消毒を行う必要はない。もし使用するならば適切な方法で実施する。
- (2) 用途や目的とする微生物に効力のある適切な消毒剤を選択する。

## 2. 消毒の使用上の注意

- (1) 有効期限を確認し、期間が過ぎたものは使用しない。
- (2) 指示通りの濃度、時間などを守る。
- (3) 有機物（血液、排泄物、吐物など）を除去してから消毒剤を使用する。
- (4) 安全管理のため、子どもの手の届かない所に保管する。

## 3. 消毒の種類

**次亜塩素酸ナトリウム** -----ピューラックス、ミルトンなど

・オマル ・砂場 ・尿、便、吐物 等の消毒

- ① 一般細菌、真菌、ウイルスに対して殺菌、または不活化効果を示すが、芽胞に対する効果はほとんど期待できない。結核菌に対する殺菌効果は不確実である。
- ② 塩素は時間が経つと分解、減少するので机等拭き直す必要はない。
- ③ 金属腐食性のほか衣類等に付くと脱色するので、気をつける。

**消毒用エタノール** (消毒用アルコール)

・ 手指 ・おむつ交換台 ・体温計 等の消毒

- ① エタノールは、イソプロパノールに比べ親水性ウイルス（アデノウイルス、ロタウイルスなど）に対し消毒効果が高いが、ノロウイルスには無効。
- ② 脱脂作用によって手荒れしやすい。

**逆性石けん** ----- オスバン・ハイアミンなど

- ① 高温ほど殺菌力が強くなるので、なるべく温めて使用します。(35～40℃)
- ② 汚れを十分落としたきれいな状態で消毒液にひたさなければ、効果は低下します。
- ③ 通常の石けんと同時に使用すると効果が低下しますので、石けんやシャボネットをよく洗い流してから使います。
- ④ 逆性石けんで手洗いした時は、その後流水で洗い流します。
- ⑤ 逆性石けんで消毒した時は、更に水拭きが必要です。

#### 4. 消毒の使用について

<p>保 育 室</p>	<p>(1)テーブルの消毒・・・作業が変わる毎に水拭きをする。  (2)床の消毒・・・・・・・水拭きをする。  そうじに使った雑巾は、よく洗いよく乾かしておくことが大切。</p> <p>◆尿・便・吐物等で汚れた時  ティッシュペーパー等で拭き取り、水拭きをして乾かす。  ※下痢便や血液に触れる可能性のある時や、吐物の片付けは、使い捨て手袋を着用する。  ※消毒する場合は上記作業後に、ウイルスにも有効な次亜塩素酸ナトリウム 0.02%希釈液で拭く。</p>
<p>お も ち ゃ</p>	<p>おもちゃの素材が、多種多様のため、その品質に沿って洗ったり、消毒したりする。購入時は、繰り返し洗える素材のおもちゃを選ぶことも、大切な条件となる。たくさんの数を用意して、同じ物を複数の子どもの口に入れないような配慮が必要。</p> <p>① めいぐるみ等の布類や洗える物  定期的に洗濯、日光消毒（週1回程度）し、汚れたら随時洗濯する。  但し、乳児がなめたり、口に入れたりする物は毎日洗う。  乳児クラス→週1回程度      幼児クラス→3ヵ月に1回程度</p> <p>◆ 便・吐物等で汚れた時  汚物を落とし、次亜塩素酸ナトリウム 0.02%希釈液に浸し洗い、日光消毒をする。</p> <p>② 洗えない物  湯拭きでていねいに拭き、日光消毒をする。  但し、乳児がなめたり、口に入れたりする物は毎日湯拭きする。  乳児クラス→週1回程度      幼児クラス→3ヵ月に1回程度</p> <p>◆ 便・吐物等で汚れた時  汚物を落とし、次亜塩素酸ナトリウム 0.02%希釈液や消毒用アルコールで拭き、日光消毒をする。</p>
<p>砂 場</p>	<p>砂を随時掘り起こし、日光に当て消毒する。場合によっては砂場にネットをかけるなど配慮する。猫の糞などで汚染された時は、次亜塩素酸ナトリウム 0.02%希釈液で消毒する。</p>
<p>お し ぼ り</p>	<p>家庭でよく洗い、十分乾燥したものを持ってきてもらい、保育園はそれを濡らして使う。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">おむつ交換で使う物</p>	<p>一人ひとりの交換後、石けんと流水でよく手を洗う。 おむつ交換は、おむつ交換専用の一定の場所で行う。</p> <p><b>(1)おむつ交換台やおむつ交換専用スペースの敷物</b> 水拭きができ、衛生的に扱える材質のものを利用する。(例、ウレタンマットなど) 水拭き後、消毒用エタノールで拭き、毎日最後に次亜塩素酸ナトリウム 0.02%希釈液で拭く。 ペーパーやバスタオルなど敷く場合は、1回ごとに廃棄するか交換すること。</p> <p>◆便・吐物等で汚れた時 汚物を洗い落とし、次亜塩素酸ナトリウム 0.02%希釈液で拭くか 10 分間浸してから洗う。</p> <p><b>(2)おむつ入れのバケツ</b> 毎日水洗いし、日光消毒をする。週 1 回次亜塩素酸ナトリウム 0.02%希釈液で消毒する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">トイレ等</p>	<p><b>(1)便器</b>・・・毎日最後に次亜塩素酸ナトリウム 0.02%希釈液で拭く。 <b>(2)オマル</b>・・・使用の度に水洗いし、毎日最後に次亜塩素酸ナトリウム 0.02%希釈液に 10 分以上浸す。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">感染性胃腸炎の場合</p>	<p><b>嘔吐物等の処理仕方</b></p> <p>①応援を呼び、他児を別の部屋へ移動させる。 ②窓を開け換気する。 ③使い捨て手袋・使い捨てマスク・使い捨てエプロンの着用。 ④トイレペーパーなどで周囲に広がらないように包み込み、次亜塩素酸ナトリウム 0.1%希釈液を含ませた雑巾で嘔吐物を覆い拭き取る。 ⑤嘔吐物や下痢便で汚れた場所は、次亜塩素酸ナトリウム 0.1%希釈液を含ませた布または雑巾で被い、10分以上放置してから拭き取り消毒をする。 ⑥嘔吐物を片付けた使い捨て手袋・使い捨てマスク・使い捨てエプロン・雑巾類はビニール袋(二重)に入れて密閉し、廃棄物(燃えるゴミ)として処理する。 ⑦嘔吐物や下痢便の付着した着衣などを下洗いする場合は水の中で静かに行う。 その時、しぶきを吸い込まないように注意する。さらに、衣類を水洗いした場所などもよく洗い、必ず拭き取り消毒をする。 なお、下洗いしたリネン類の消毒は、85℃・1分間以上の熱水洗濯が適している。 熱水洗濯ができない場合には、次亜塩素酸ナトリウム 0.1%希釈液に10分浸けて消毒する。(次亜塩素酸ナトリウムは漂白作用や金属腐食性があるので「使用上の注意」を確認すること) ⑧処理後は手洗い・うがいの実施。状況により着替える。</p> <p>◆ 嘔吐物処理セットを作っておき、バケツにまとめておくといざというとき便利です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>使い捨て手袋・マスク・エプロン・ビニール袋・吐物処理用の布や紙 消毒用の布や雑巾・次亜塩素酸ナトリウム</p> </div> <p>◆次亜塩素酸ナトリウム 0.02%希釈液を作り、子どもたちがよく触れるドアノブ、手すり、蛇口、便座、ボタン(スイッチ)などは水拭きしたあと、次亜塩素酸ナトリウム 0.02%希釈液で1日1回拭きましょう。</p>

## 5. 消毒剤 次亜塩素酸ナトリウム希釈液の作り方 (保育園における感染症対策ガイドラインより)

次亜塩素酸ナトリウム(市販の漂白剤, 塩素濃度約6%の場合)の希釈方法

消毒対象	濃度 希釈倍数	希釈方法
○便や嘔吐物が付着した床 ○衣類などの漬け置き	0.1% (1000ppm)	1Lのペットボトル1本の水に20ml (ペットボトルのキャップ4杯)
○食器などの漬け置き ○トイレの便座やドアノブ 手すり、床等	0.02% (200ppm)	1Lのペットボトル1本の水に4ml (ペットボトルのキャップ1杯)

# 手 洗 い

石けん(液体石けん)で十分手洗い、流水でよく洗い流すことが基本です。

## 1. 園児の手洗いについて

登園時、食事やおやつ前後、排泄後、外遊び後、粘土や玩具で遊んだ後、動物を触った後、手が汚れてしまったときに、手洗いをさせましょう。

※食事やおやつ前は保育士が園児の手洗いを確認します。

- (1) 流水で手をよく濡らし、液体石けんを十分泡立てて洗います。
- (2) 流水で液体石けんが残らないように、よく洗い流します。
- (3) 個人持ちのタオルで拭きます。

### <手が洗えない乳児や、手洗いが困難な園児の場合>

個人持ちのタオルを濡らし、手を拭きます。タオルはそのつど流水ですすぎます。

## 2. 保育士の手洗いについて

出勤時や調乳・食事・与薬の前、排泄の援助後、おむつを取り替えた後、子どもの体液(尿、便、血液、だ液、目やに、傷口の浸出液)に触れた後、動物を触った後、清掃後には必ず手洗いをします。

- (1) 流水で手をよく濡らし、液体石けんを十分泡立てて洗います。
- (2) 流水で液体石けんが残らないように、よく洗い流します。
- (3) 清潔な個別タオルで拭きます。

※調乳・食事前・おむつ交換後は、できればペーパータオルの使用が望ましい。

- (4) 調乳・食事前・排便や嘔吐物処理後は、手を消毒します。

### <消毒用方法>

水気をよく拭き取り、速乾性擦りこみ式手指消毒用アルコールが乾くまで十分に擦り込みます。

### <手荒れ対策>

手洗いの回数が多くなると、それにつれて手荒れにおこりやすくなります。手荒れ＝皮膚の損傷部位に細菌汚染(黄色ブドウ球菌等)が生じやすくなるので、感染予防上、頻回にハンドクリームなどの保湿剤を塗り、手荒れ予防を心がけましょう。

## 3. 手洗い指導について

手を清潔にするということは、衛生上とても大切なことです。特に細菌は目に見えません。あらゆる病原菌体から身を守るために、手洗いは欠かすことができません。しかし手を洗う習慣というのは、まわりの人がきちんと指導してあげないと、子どもはなかなか身につかないものです。なぜ手を洗う必要があるのか、上手な手の洗い方などを繰り返し教えて、習慣づけていきましょう。

## 洗い方のポイント

なにげなく洗っている手洗いでは、意外と汚れが落ちていません。洗い方によっては、逆に細菌をふやしてしまうという実験結果があります。手のしわやひだの中まで、洗い落とすように時間をかけて丁寧に洗う習慣をつけましょう。時々保育士と一緒にやりながら、正しい洗い方を教えるようにしましょう。

### ◆正しい手洗いの方法（30秒以上、流水で行う）（保育所における感染症対策ガイドラインより）

- ①液体石けんを泡立て、手のひらをよくこすります。
- ②手の甲をのばすようにこすります。
- ③指先、つめの間を念入りにこすります。
- ④両指を合体し、指の間を洗います。
- ⑤親指を反対の手でにぎり、ねじり洗いをします。
- ⑥手首も洗った後で、最後によくすすぎ、その後よく乾燥させます。



\*アルコールは、ノロウイルスの不活化にはあまり効果がないといわれています。

# プールの衛生管理について

保育園のプールは水量が少ないわりに、たくさんの子どもが一度に入るため、水が不潔になりやすくまた、それを介して、いろいろな病気の感染源にもなりえます。抵抗力が弱く、感染しやすい子どもたちを守るためにも基準どおりの消毒をすることが必要です。

## 1 準備について

### (1) プールの清掃

- ① プール開き前にプールの汚れをデッキブラシ等で落とし、しっかり洗います。
- ② 毎日の清掃は、排水後ブラシをかけて水で洗い流す。
- ③ ビニールプールは日にあてて乾燥させる。

### (2) 環境の整備

- ① プールサイドは裸足で歩くので、危険物がないか毎日必ず確認する。  
また、危険物の有無だけでなく、たらい・ホース・玩具などプール遊びに使用する用具を置く位置にも問題ないか確認しておく。
- ② プールに木の枝がかかっていると、葉がプールに落ちて汚れたり虫に刺されることもあるので切っておく。

## 2 水質管理について

### (1) プールに入る前に

- ・ プールに細菌やウイルスが入ることを最小限に防ぐため、シャワーで身体やお尻をしっかりと洗う。

### (2) プール水の消毒

#### ① 消毒剤の種類

- ・ 園のプールの消毒剤は塩素剤を用い、液体または顆粒剤を水に溶かして使用する。
- ・ 水深が浅いため、園児が拾う危険性があるので錠剤は使用しない。  
但し、循環ろ過式の設備があつて業者の指導により実施している園は除く。

※異なる種類の消毒剤は同時に使用すると化学反応を起こす場合があるので、1種類を使用する。

#### ② 初回投入と投入量

- ・ 使用する5～10分前に、プールの容積によって算出した量（新潟市「保育の計画」作成の手引き P127 参照）をプールに入れ、プール全体に消毒剤が行き渡るようにしてから1回目の残留塩素濃度を測定する。

#### ③ 消毒剤の追加

- ・ 2回目の残留塩素濃度測定は、プール遊び開始から30分を目安に行う。
- ・  $0.4\text{mg}/\ell$  以下の場合には消毒剤を追加投入し、常に  $0.4\sim 1.0\text{mg}/\ell$  を保つようにする。  
その後も30分毎に残留塩素濃度測定を実施し、必要時消毒剤を追加投入する。

※天候・プールの汚れ・遊泳人数などにより残留塩素濃度は影響される。

※園児がプールに入っている時は消毒剤を入れないこと。

#### ④ 乳児用のビニールプール

- ・ 複数の園児が使用する場合は、塩素消毒基準を厳守する。  
ただし、塩素濃度管理を実施することが困難である場合は、一人ひとりの園児を対象とした個人用のプール（たらい等、共有はしない）を使用する。使用後の個人用プール（たらい等）



は塩素消毒後、日にあてて乾燥させる。

**【残留塩素濃度測定の方法】**

- ・角型試験管(検水槽)に8分目程プール水を入れ、左右の試験管ポケットに入れる。
- ・もう1本の角形試験管(検水槽)にレベルラインまでプール水を入れ、DPD試薬を加え混和する。
- ・直ちに中央の試験管ポケットに入れ、比色板の色と見比べる。

※ 試薬が完全に溶けなくても、5～10秒以内に比色する。

プールの残留塩素濃度の基準値: 0.4 mg/L ~ 1.0 mg/L

**【6% ビューラックスを使う場合の投入量の算出方法】**

1.0 mg/L の場合

角 型	$\overset{m}{\text{縦}} \times \overset{m}{\text{横}} \times \overset{m}{\text{深さ}} \div 0.06$ $= \boxed{\phantom{000}} \text{ ml}$	円 型	$\overset{m}{\text{半径}} \times \overset{m}{\text{半径}} \times 3.14 \times \overset{m}{\text{深さ}} \div 0.06$ $= \boxed{\phantom{000}} \text{ ml}$
--------	---	--------	---

(2) プール日誌

プール日誌には、天候・気温・水温・プール使用人数・残留塩素濃度・消毒薬追加時間などを記録する。

プール日誌 < 例 >

	年		月		日 ( 曜日 )		天気 _____	
利用時間	時	分	時	分	時	分	時	分
クラス名								
入泳人数	人		人		人		人	
気温	℃		℃		℃		℃	
水温	℃		℃		℃		℃	
残留塩素測定 開始前の値	mg/L		mg/L		mg/L		mg/L	
消毒剤追加時間	時	分	時	分	時	分	時	分
消毒剤追加後の値	mg/L		mg/L		mg/L		mg/L	
備考								

## プールの水温と気温

気温 23℃以上 } が望ましい  
水温 25℃以上 } ※ 風が強いと体感温度は下がります

### 1. プール遊びについて

#### (1) プールに入る前の注意

- ① 水に入ると体が冷えトイレが近くなるため、トイレに行かせる。(下痢の子は入水禁止)
- ② 鼻をかませる。爪が伸びすぎていないか点検する。
- ③ 準備体操をする。特に朝の内は体が硬いので念入りにする。
- ④ シャワーで身体やお尻を洗い流す。

#### (2) プール遊び中の注意

- ① 子どもたちはプール遊びではついしゃぎすぎ、また裸になっているため傷を受けやすい状態であることから、予測できるけがは事前に話し合い、けがの防止に努める。
- ② 衛生面から、3歳以上児は水泳帽を着用する。
- ③ 気温や湿度の高い炎天下で体を動かすので、熱中症等にならないよう留意する。

#### (3) プール後の注意事項

- ① プールからあがったら塩素を落とし感染症を防止する目的で、シャワー・洗眼・うがいをさせる。
- ② たくさん汗をかくので、十分な水分の補給をする。
- ③ 水の中で体を動かすと体温を奪われ思った以上に体力を消耗しているので、十分休息させる。

次のことは感染症を防ぐ上で大切なので習慣づける。

入る前に

排便  
排尿  
鼻をかむ  
シャワー

終了後は

シャワー  
洗眼  
うがい

# 事故防止マニュアルの整備と事故予防

事故防止のために、日常どのような点に留意すべきかについて、事故防止マニュアルを作成し、その周知を図る必要があります。

## 1 日常的な事故予防対策

**ア 日常的な事故防止：**あと一歩で事故になるところだったという、ヒヤリ・ハットした出来事（インシデント）を記録し分析して、事故予防対策に活用することが望めます。

**イ 子どもの発達との関係：**事故は、乳幼児の発達の特性と密接な関わりを持って発生することが多く、保育士等は、子どもの発達特性と事故との関わりを理解することが望めます。

### ウ 安全点検

- 安全点検表を作成し、施設・設備・遊具・玩具・用具・園庭等を定期的に点検する。
- 子どもの動静については、常に全員の子どもを把握する。観察の空白時間が生じないように職員間の連携を密にする必要がある。子どもの安全の観察に当たっては、一人一人を確実に観察することが大切である。
- 散歩経路や公園等の危険箇所をチェックする。  
(散歩経路マップ・公園マップ・園舎マップ)

### エ 安全教育

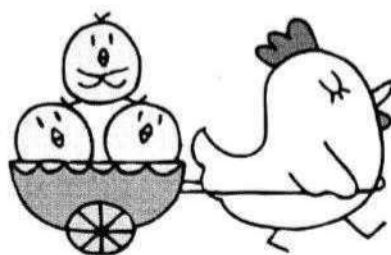
- 園児への安全教育
  - ・ 日常の生活の中で、安全に必要な知識や態度が身につくようにし、危険なことは繰り返し注意する。
  - ・ 遊具の正しい使い方、遊び方を知らせる。
  - ・ 日頃から、年齢別の発達に応じ敏捷性や運動機能の発達を促すような遊びを取り入れ、体力づくりをする。
- 職員間の連携・共通認識・取り組み
  - ・ 各園児の発達段階や、特徴を職員全体で理解する。
  - ・ 常に全員の子どもの動静を把握するために、職員間の連携を密にする。
  - ・ 心肺蘇生や応急手当などの講習会等へ参加し、万が一に備える。

## 2 事故発生時の対応（基本姿勢）

- 子どもの生命と健康を最優先し、必要に応じて迅速に応急処置、救急蘇生を行うとともに、緊急度に応じて救急車の手配、保護者及び嘱託医への連絡等を行う。
- 保護者に対しては、相手の立場にたって対応する。緊急時には早急にまた簡潔に要点を伝え、事故原因については、改めて具体的に説明することが必要である。
- 事故により心身共に苦痛を被った子どもと保護者の気持ちに、どう応えていくかが重要であり、真摯にかつ誠意ある態度で対応する。

## 3 事故から学ぶ

- 再び同じような事故をくり返さないために、事故を総括し評価し洞察を深めることで再発の防止を図る。
- 事故リスク軽減のために、ヒヤリハット事例を記録する。
- すべての職員は、自分の責任を果たすだけでなく、チームワークによって事故防止に努める。
- 園長と主任保育士は協力して事故を防ぐための安全管理と職員の安全への意識を向上させるように努める。





# 病院緊急連絡先



通報要領については、  
139ページを参照

救急車・・・119

保育園の住所

## 電話番号

	病 院 名	電話番号	診療時間・休診日
整形外科			
歯 科			
眼 科			
内 科			
皮 膚 科			
耳鼻咽喉科			
脳 外 科			
総合病院			

※ 休診日の確認と、その時の対応を事前に確認しておきましょう

※ 迷った時は、受診しましょう

タクシー会社

☎ 〇〇〇—〇〇〇〇



## 安全管理について

- ア 保育中の事故防止のために、子どもの心身の状態等を踏まえつつ、保育所内外の安全点検に努め、安全対策のために職員の共通理解や体制作りを図るとともに、家庭や地域の諸機関の協力の下に安全指導を行うこと。
- イ 災害や事故の発生に備え、危険箇所の点検や避難訓練を実施するとともに、外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練など不測の事態に備えて必要な対応を図ること。また、子どもの精神保健面における対応に留意すること。

(保育所保育指針 第5章より)

### 日常の安全管理（セーフティマネジメント）

子どもの安全は、重要な課題です。安全点検表を作成して、施設、設備、遊具、玩具、用具、園庭等を定期的に点検し、安全性の確保や機能の保持など具体的な点検項目や点検日及び点検者を定めることが必要です。また、遊具の安全基準や規格などについて熟知し、必要に応じて専門技術者による定期点検を実施します。

(保育所保育指針解説書より)

### ◎ 施設・遊具・保育室安全点検表について

#### □施設安全点検表 1

1週間に1回点検するように作成してあります。

点検者は、施設長または主任保育士が望ましいでしょう。

#### □遊具（園内外）安全点検表 2

子どもが園庭や遊戯室などに出る前に、安全を確認するために使用します。

点検者は、各園が相談して決定します。

#### □保育室安全点検表 3

各クラスの担当保育士が、保育室の安全点検を行う際使用します。

コメント欄は、園長または主任保育士が、各保育室の環境構成の方法や安全面で注意すべきこと等を記載し、担任保育士と話し合い保育に活かします。

\* 各保育園の実情や実態に応じて、項目の見直し等行います。

# 施設安全点検表 1

平成

年

月

保育園

週	チェックポイント	1週/ 日	2週/ 日	3週/ 日	4週/ 日	5週/ 日	備考
	点 検 者						
園	落下の危険防止(落ちそうな箇所はあるか)						
	遊具、着地面の安全対策(地面の突起、穴)						
	遊具の腐食、破損、磨耗、ささくれはないか						
	ボルト 接合部の腐食 ゆるみはないか						
	塗装の状況(さびていないか)						
	遊具全体のがたつきはないか						
	問題点(例ブランコの座板は床から30センチ以上あるか)						
庭	石、ガラス、動物の糞など落ちていないか						
	地面に大きなくぼみはないか						
	砂場の衛生管理(日光、薬物処理)をしているか						
	樹木の手入れ(害虫、伐採)						
	不審者の潜む場所はないか						
	水はけがよくなっているか						
園 舎	玄関周りの破損はないか(カギ、床面、すのこ)						
	飛び出さないような措置はしてあるか						
	出入り口の戸の開閉はスムーズか						
	廊下や出入り口に危険なもの、不要なものはおいてないか						
	電気器具、コンセントの状態は正常か						
	手洗い場は清潔で、安全性が保たれているか						
	床面の安全性が保たれているか						
	テレビの落下防止がなされているか						
	棚、ロッカーの設置は安全か						
	保育室、遊戯室は整理整頓されているか						
	窓ガラス、窓枠の破損、腐食はないか						
	窓の開閉はスムーズか、はずれやすくなってないか						
	乳児室のベッドの柵のがたつき、ゆるみなどないか						
	温湿度計の管理はなされているか						
トイレは清潔で安全が保たれているか(床面、便器)							
かさたてに置きっぱなしの傘はないか							
そ の 他	プールにひび割れなどないか						
	プールの床面、周りは滑りやすくなっていないか						
全 体	例 駐車場の安全対策をこうじているか						
	明るく清潔で安全な状態が保たれているか						

\*良好 ○ 注意、危険 ×

\*空欄は各園で必要な項目をプラスしてご使用ください

遊具(園内外)安全点検表2

平成 年 月

	日																																					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31						
点検者																																						
1	ブランコは安全に使えるか																																					
2	滑り台は安全に使えるか																																					
3	ジャンゲルジムは安全に使えるか																																					
4	鉄棒は安全に使えるか																																					
5	総合遊具は安全に使えるか																																					
6	うんていは安全に使えるか																																					
7	砂場に糞等落ちていないか																																					
8	園庭に石、ガラス等危険物はないか																																					
9																																						
10																																						
11																																						
12																																						
13																																						

\* チェック欄は一番上の欄のみ名前を記入し、他は✓とする \*空欄は各園で必要な項目をプラスしてご使用ください



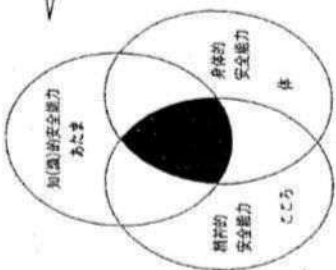
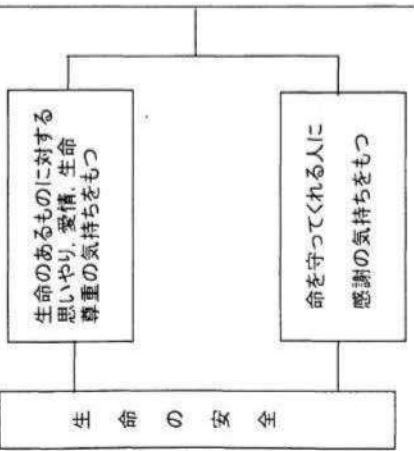
平成 年 月 保育室安全点検表 3 保育園 組 担任名

番号	項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				
1	棚の上に重たいものがのっていないか																																			
2	机上に危険物は出していないか																																			
3	窓から身を乗り出せるような物はおいてないか																																			
4	床が滑りやすくなっていないか																																			
5	床に凹凸やささくれはないか																																			
6	手洗いは清潔で破損はないか																																			
7	保育室は整理整頓、清掃されているか																																			
8	机、いすに破損、ガタツキ、ささくれはないか																																			
9	戸棚、整理棚など倒れやすくなっていないか																																			
10	薬品管理はきちんとなされているか																																			
11	掲示板に画鋲の針など残っていないか																																			
12	温湿度計の管理はなされているか																																			
13	非常口はふさいでないか																																			
14	避難路の確保はできているか																																			
15	破損したおもちゃ等の確認はされているか																																			
	コメント欄																																			

印又はサイン

\*空欄は各園が必要な項目をプラスしてご使用ください

# 交通安全

<p>目 的</p>	<p>◎交通事故から幼児の生命を守る。          ・生命の尊さ、大切さを知らせる。          ・基本的な交通の決まりを知らせ、進んで守るようにする。          ・安全に行動ができるよう、習慣や態度を身につける。</p>	<p>安全能力とは危険を早く発見・判断し、それを回避するのに必要な安全な行動と実行できる能力。</p>  <p>・具体的な交通ルール(知識)          ・見て聞いて危険を判断(知覚)          ・記憶・推理・言動・数の概念</p> <p>◎安全能力を高めるための運動諸機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・走力</li> <li>・跳力</li> <li>・投力</li> <li>・瞬発力</li> <li>・柔軟性</li> <li>・敏捷性</li> <li>・平衡性</li> <li>・持久性</li> <li>・筋力</li> <li>・巧緻性</li> <li>・協応性</li> <li>・リズム</li> <li>・タイミング</li> </ul> <p>・視力・聴力のチェックと管理          ・健康の保持と増進</p> <p>・情緒の安定          ・望ましい人格形成          ・道徳性の向上</p>
<p>子 ども の 特 性</p>	<p>・「依存性」が強く大人の真似をしやすい。          信号無視をしている大人を真似たり、信号を見ないで、人の流れによって横断したりする。          ・「判断力」や動作の応用ができない。          いつもの道では交通規則が守られると目には見えない。          ・一つのものに注意が向くと、周りのものが見えない。          ボールが道路に転がり出した時や、向こう側から音が響かされた時など急に走り出したりする。          ・物かけや狭いところが大好き。          車の下の「かくれんぼ」や、車の後、車輪のそばで平気で遊ぶ。          ・物事を単純にしか理解できない。          黄色い旗を出していれば、車は必ず止まってくれぬものと思っている。          ・その時の気分によって行動してしまう。          嬉しいことがあると浮き浮きしたり、長い時間、部屋にいた時など急に走り出したりする。          ・抽象的な言葉だけでは、よく理解できない。          ・視野は大人の2/3である。聞く力も大人より劣る。          ・車の速度を判断することが難しい。</p>	<p>指導上の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の大切なことをわかりやすく教え、自他の生命を尊重する心を育てる。</li> <li>・子どもの特性や発達、個人差、年齢差などを考慮して無理のない方法で身につけさせるようにする。</li> <li>・日頃の保育の中で、情緒の安定をはかり落ち着いた行動ができるよう、常に安全能力を身につけるよう体験を通して繰り返す。</li> <li>・単なる知識だけでなく、登降園、散歩などその場に応じた体験的な指導を繰り返し、一人ひとりの子どもが身につくようにつとめる。</li> <li>・子どもが楽しく遊びながら、身のこなしや判断力などの、安全能力が身につくようにする。</li> <li>・保護者、地域との連携を取り、協力を得ながら、交通事故から子どもを守る。</li> </ul>
<p>主 な 指 導 の 内 容</p>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい歩行              ・安全な歩行</li> <li>・正しい横断              ・安全な横断</li> <li>・車の特性</li> <li>・信号の見方              ・信号の意味</li> <li>・きまりを守る              ・マナーを知る</li> <li>・安全な遊び場              ・雨の日、雪の日の交通安全</li> </ul>	

# 交通安全年間指導計画

目標	ねらい	1期	2期	3期	4期
<p>◎交通事故から幼児の生命を守る</p>	<p>・生命の尊さ・大切さを知らせる。 ・基本的な交通のきまりを知らせ、進んで守るようにする。 ・安全に行動ができるよう、習慣や態度を身につける。</p>	<p>◎道路の正しい歩き方 ・右側を歩く ・歩道、路側帯を歩く ◎道路の正しい渡り方 ・横断歩道を渡る ・信号の意味を理解し守る ・左右の安全を確認する ◎飛び出しをしない ・一旦止まる事を身につける ◎道路には飛び出さない ◎乗り物の正しい乗り方 ・安全な乗り降りの方を知る （自転車、車、バスなど） ・チャイルドシートを着用する</p>	<p>◎雨の日の交通安全 ・傘や雨具等の正しい扱い方を知る ・雨の日は、目立つ物を身につける ・道路の水溜りで遊ばない ◎危険な場所や危ない遊びを知る ・安全な所で遊ぶ ・路上、駐車場などで遊ばない ・自転車は保護者の目の届く安全な所で乗る ◎見通しの悪い所から飛び出しをしない ・止まっている車の直前、直後の飛び出しは危険が大きいことを知る</p>	<p>◎基本的な交通のきまりを守り安全な行動をする ・身近な標識、標示を知る ・日常生活に必要な交通のきまりを知る ◎遊びを通して安全に行動できる運動能力や判断力などを身につける ◎生命の大切さを知る ・生命の大切さがわかる ・生命のあるものに愛情を持つ ・他人に思いやりやりの心を持つ ・進んで生命を守る</p>	<p>◎雪の日、寒い日の安全な歩き方を身につける ・冬の道路はすべりやすく、歩きにくいので危険であることを知る ・防寒具を着用すると動きにくく視野も狭くなり、危険が多くなる事を知る ◎交通安全の大切なことを再認識する ◎生命の大切さがわかり、安全は自分で守らなければならないことを知り、守るようになる ◎生命を守ってくれている人に感謝の気持ちを持つ</p>
<p>・単なる知識だけでなく、登陸園、散歩などその場に即じた適切な体験指導を繰り返す ・日常の楽しい遊びを通して自然に機敏性、判断力など安全への意識を高め、安全能力が身につくようにする ・生命の大切な事をわかりやすく教えると共に、生命を守る心を育てるようになる</p>	<p>・傘や雨具等で動きが悪く車が見えにくくなり危険が多くなる事を知らせる ・路上での遊び、駐車場や車の陰での遊び、飛び出しの危険などを具体的にわかるよう、繰り返し教え、交通事故の恐ろしさを知らせる ・地域、保育園周辺の危険箇所を調べておく（日常子どもが遊んでいる場所の安全の確認）</p>	<p>◎子どもの特性や個人差、発達、年齢など考慮して無理のない方法で身に付くようにする</p>	<p>・保護者への協力を依頼する 1. 登陸園の折りに車や自転車などを利用して安全に留意してもらおう 2. チャイルドシート着用 3. 家庭でも正しい交通ルールを身につけられるよう大人が手本を示す</p>	<p>・小学校入学に向けて、学校までの道を一緒に歩き危険なところを話し合ってもらおう（年長児）</p>	<p>・冬場の危険箇所、安全な通行方法 交通ルールなど具体的に指導する ・年間の指導を振り返り、その成果を確かめ、不十分などを留意し指導する ・保護者や、地域のみなさんの協力によって、事故から守られていることを知らせる</p>

避難訓練

<p>目的</p>	<p>● 災害の時、子どもの生命を第一とし、安全な場所に避難誘導する。 ● 訓練を繰り返し行い、被害を最小限にとどめる。</p>	<p>● 子どもの生命を守るためには、練習の積み重ねが必要である。 ● 訓練が園児にとって恐怖にならないよう配慮する。 ● 災害時に保育園が地域の避難所となることもあり、地域との連携は大変重要である。</p>
<p>子どもの特性</p>	<p>● 子どもは、災害に対しての知識・判断力に乏しく、また、大人に依存しなければ安全に避難ができない。 ● 非常時に気持ち不安定になり、恐怖心を持ちやすい。 ● 特に、0、1歳児は、一人では歩けない子が多い。</p>	<p>● 子どもたちを集め、火元の確認をし、指示に従って誘導する。 ● 消火器の置き場をはっきり表示し、使い方を心得ておく。 ● 窓や戸などは必ず閉める。</p>
<p>保育士の配慮</p>	<p>● 保育士は日々の人数を登園時・降園時に記録して、把握する。 ● 災害の種類や、いろいろな状況の違いに注意して行動する。 ● 全職員は、落ち着いて一致協力して行動する。</p>	<p>● 慌てて外に飛び出さない。 ● 机の下などに入り、地震が静まるまで静かに待つ。 ● 手早く火の始末をし、窓や出入り口の戸を開ける。 ※ 普段から地震の時のことを考えて、次のことに留意する。 ● 子どもが生活する場所には、物や道具などを高く積み上げない。 ● 特に関心する場所については、安全を考える。 ● 倒れやすい本棚やテレビ等は、柱や壁などに固定しておく。</p>
<p>避難方法</p>	<p>● 合図と共に保育士は、直ちに園児を集める。 ● 災害場所と災害の種類を確認する。 ● 園長又は代理者に指示に従い、安全な場所に避難誘導する。 ● 主任又は代理者は、便所・保育室・静養室などを調べ、全員避難したことを確認する。 ● 人数の確認をし、園長又は代理者に報告する。</p>	<p>● 風・水害の時 ● きちんとした身支度をして支持を待つ。 ● 状況に応じ、早めに保護者に連絡する。</p>
<p>避難要領</p>	<p>● 園長又は代理者がこれを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※119番通報要領 110番通報要領</p> <p>①火事です(不番者です) ②場所は ○○保育園です ③目標は ○○の隣です ④ _____ が燃えています (病人がいます) ⑤電話番号と名前は _____ の○○保育園です</p> <p>(注)相手が確認するまで受話器を置かない</p> </div> <p>● 避難場所 &gt; ・ 第一避難場所 _____ ・ 第二避難場所 _____ ・ 出火・災害の状況により避難する。</p>	<p>● 用意及び点検 &gt; ● 非常口を点検し、常に使えるようにしておく。 ● 避難用リュック・・・園児名簿・救急薬品・筆記用具(油性ペン・鉛筆・半紙等) ガムテープ・缶・おぶい紐・おむつ・避難用ロープ・懐中電灯 ラジオ・テジッシュペーパー・トイレシートペーパー・タオル・軍手 ミネラルウォーター・ミルク・哺乳瓶・乾パン・飴など ※ 電池・食料は定期的に点検し、入れ替える。 非常食を用意する・・・主食(乾パン・クラッカーなど) 主菜(缶詰) 副菜(ジュースなど) 飴など、離乳食(ベビーフード・ミルクなど) 非常食やそれ以外の場所に分散しておく。 ※ 給食室は点検し賞味期限内におやつの中に入れておく。 備蓄品は点検し賞味期限内におやつの中に組み入れる。 ● 非常時持ち出しは目につきやすい所に置く。 ● 非常時用の靴を身近に用意しておく。</p>
<p>※各園の実態にあった消防計画(防災計画)を作成し、職員に周知し、非常時にすみやかな対応ができるようにしておく。</p>		

## 避難訓練年間指導計画

**年間目標** ・災害の時、子どもの生命を第一とし、安全な場所に避難誘導する。  
 ・訓練を繰り返し行い被害を最小限度にとどめる。

<ねらい> ◎ 生命の大切さを知る。 ◎ いろいろな避難方法を知る。

月	訓練の種類	内 容	保育者の配慮
4月	避難訓練の話聞く	・避難訓練について知る。 ・非常時の合図を知る。 ①②③④の約束を知る。 (押さない・かけない・喋らない・戻らない)	・紙芝居・絵本等で避難訓練について知らせ、恐怖心を持たせないようにする。 ・避難訓練に対する基本的考え方や役割分担を周知しておく。 ・乳児クラスの避難についての協力体制を作っておく。 ・避難用具・非常食の確認をする。
5月	火事 (近くの民家より出火)	・速やかに集合し保育者の指示に従う。(遊戯室集合) ・消防署員の話聞く	・非常ベルが鳴っても、慌てず静かに指示を聞くようにする。 ・保育者の指示に従って、スムーズに避難できるように誘導する。 ・園舎を点検し、逃げ遅れた子どもがいらないか確認をする。 ・保育者は通報訓練や消火器の使い方を知り、万が一に備える。
6月	地震 (園庭に避難)	・地震時の避難方法を知る。 ・保育者の指示をよく聞き机の下等安全な所で揺れのおさまるのを待つ。	・非常口を開ける。 ・落下物等で怪我をしないように安全な所に身を寄せる。 ・恐怖心を持たせないよう揺れがおさまるまで動かないように話す。
7月	水害	・水害・水の事故について知る。 ・紙芝居・話などで知らせる。	・気象情報に注意を払い、早めに安全な場所に避難をする。
8月	火事 (食事中)	・食事を途中で止め、保育者の指示に従い落ち着いて行動する。	・緊急の時は食事を途中で止めさせる。 ・火災に対しては、煙の怖さを知らせる。
9月	地震	・安全な所で揺れの治まるのを待つ ・指示に従い迅速に行動する。	・出口での混乱に気をつける。 靴の履けない子には援助し、持って出してから履くなど工夫する。 ・非常階段やすべり台での避難は安全に留意しながら実施する。
10月	風水害 (延長保育時)	・いろいろな状況での避難の方法を知る。	・保護者に避難場所を掲示しておく。 ・人数確認をする。 ・園外に避難する時は携帯電話・ラジオなどを持参する。
11月	火事 (給食室より出火)	・園内よりの出火なので指示に従って迅速に行動する。	・煙の怖さを知らせ吸わないようにさせる。(ハンカチをあてる等) ・点呼をしたクラスより交通事故に気をつけて避難する。 ・迅速に安全に行動できるよう日頃より心がける。
12月	地震 (自由遊び中)	・担任でなくとも近くにいる保育者の指示に従い安全な所に避難する。	・担任にかかわらず近くにいる保育者の所に集まることを徹底する。
1月	火事 (午睡中)	・午睡中における避難を徹底する。	・目覚めの悪い子や、掛布団等で子どもの姿が見えにくくなっていること等から、人数確認や避難方法の確認をする。
2月	地震	・安全な場所に避難する。 ・コートを着用し非難する。	・非常口の除雪をし、避難路を確保する。 ・コートを手に持ちすぐに集合する。 ・雪で歩道が狭くなっているため、安全に留意して避難する。
3月	火事 近隣より出火	・避難行動を身につけ、あわてず落ち着いて行動する。	・いろいろな避難方法のあることがわかり、約束を守って速やかに行動する。

## 避難訓練実施記録簿

園長		主任		担当		実施 月日	平成 年 月 日 天候( ) 時 分 ~ 時 分
参加人員			児童	名	職員	名	その他 名 計 名
災害想定			火災	地震	通報訓練	その他( )	
ねらい							
消火訓練実施状況			消火器の確認	消火器の持ち出し	消火器の使用手順確認		
			実際に消火器を使用	その他( )			
訓練当日の 状況想定							
[ 災害の具体的想定と 使用避難用具の明記 ]							
実施状況							
評価							
反省							

※消火訓練は、少なくとも毎月一回は実施する。(児童福祉施設の設備及び運営に関する基準第6条)  
 ※災害想定、消火訓練欄は実施個所を○で囲む。

## 保育園における不審者対応について

- ・ 不審者に対する安全対策の徹底について
- ・ 不審者対応訓練年間指導計画
- ・ 不審者対応防犯訓練実施訓練簿
- ・ 不審者対応役割分担表（例）
- ・ 不審者への緊急対応の流れ
- ・ 不審者対策チェック表
- ・ 不審者対応防犯訓練用チェックリスト

### 保育園の防犯訓練の考え方

幼児にも防犯訓練は必要であるが、臨場感のある訓練に乳幼児を参加させることは、恐怖心を募らせることのほうが大きく、マイナスの体験が予想される。

防犯訓練は、基本的には職員が万一の時に動けるか、幼い命を守るために全職員が状況に応じた沈着で適切な行動が取れるかどうかの訓練を充実させることが最も重要である。

保育園は職員の数が少なく、殆どが女性ばかりであることから様々な条件に対応した創意工夫のあるマニュアルの作成とともに職員一人ひとりが、いつ不審者が侵入しても対応できるよう多様な想定をすることが大切である。

そして不審者侵入の際、園全体の中で自分がどの位置にいても対応できるよう全役割（発見者、連絡係、対応係、避難誘導係、通報係など）を体験することも大切である。

## 不審者等に対する安全対策の徹底について

### I. 日常の安全確保のための園内の体制作り

#### ○ 来園者の確認の徹底

- ・ 受付での記帳、胸章の着用など依頼し、確認を徹底する。
- ・ 出入り口を指定し、他の出入り口は状況に応じて施錠する。
- ・ 保護者以外の受け渡しは事前に連絡をもらうよう徹底する。

#### ○ 園内の巡視体制の強化

- ・ 未然防止と早期発見・早期対応
- ・ 園内巡視の強化

#### ○ 園外保育時等の安全管理の強化

- ・ 園外保育時の地域住民の協力要請及び十分な打合せ
- ・ 経路・目的地の安全面の再点検
- ・ 緊急時の避難場所・連絡場所のマップ作成などの準備

#### ○ 園開放時の安全管理の徹底

- ・ 開放部分と非開放部分の明確化

### II. 不審者侵入時における職員の危機管理のあり方

#### ○ 保育園における安全管理体制の見直し

- ・ 役割分担・指揮命令系統を明確化
- ・ 安全な避難場所を複数指定及び危機管理体制の整備
- ・ 防犯に配慮した訓練を行い、具体的な行動を認知しておく。

#### ○ 緊急時の対応の留意点

- ・ 事件発生を周囲に知らせ、注意を喚起し、避難場所を具体的に指示して避難させる。
- ・ 大声をあげ110番通報や他の職員の応援を求める
- ・ 負傷者が発生した場合には、119番通報するとともに、救急車が到着するまでの間に意識や呼吸の有無、障害の状況を確認し、必要な応急手当を行う。

#### ○ 事後対応の留意点

- ・ 適切な事後措置を迅速に行う。

### III. 地域ぐるみの安全管理体制作り

#### ○ 地域の関係団体との具体的な連携強化

- ・ 情報交換を進め、安全管理について協力を依頼する。

#### ○ 警察など関係機関との連携強化

- ・ 警察や消防などの関係機関との連携を強化し、不審者や緊急時の対応等に関する情報交換に努める。特に火災報知器の使用にあたっては、地元の消防署と十分協議を行っておく。



## 不審者対応訓練年間指導計画

### 年間目標

- ・園舎の安全管理に常に配慮し、外部からの不審者の侵入を防ぐ
- ・訓練を繰り返し行い、被害を最小限度にとどめる

### <ねらい>

- ・不審者に近づかないことを知る
- ・身を守る方法を知る
- ・全職員は子どもを守るために状況に応じた適切な行動がとれるよう訓練を行う

月	訓練の種類	内 容	保育者の配慮
4月	職員で対応マニュアルを確認する	不審者対応マニュアルを確認する お散歩マップを検討する	・保育園独自の対応マニュアルを確認しあい、乳児においては担当する子どもをしっかり覚える ・散歩の場所や通行経路の安全について検討を行い周知する
5月	安心・安全について知る	子ども自身が安全・安心について考える い か の お す し を知る (行かない・乗らない・大声を出す・すぐ逃げる・知らせる)	・お話や紙芝居を通して、安心・安全について知らせる
6月	不審者侵入	玄関より侵入したことを想定し、子どもの安全確保をしながらマニュアルに沿って避難する	・子どもたちに不安をもたせないよう配慮する
7月	いろいろな場合の不審者侵入対応について確認し合う	園庭・非常口等の侵入に対しての子どもの安全確保について確認し合う	・具体的な想定について話し合い適切な行動が取れるよう各自確認する
8月	プール遊びでの不審者目撃	プール遊びでの不審者対応を行う	・子どもたちにお不安を持たせないよう配慮する ・施設管理や防犯対策の徹底
9月	散歩時、不審者と遭遇	保育者の指示に従い迅速に行動する	・不審者対応と子どもの安全確保に努める ・職員の役割分担を臨機応変に行う ・園外に行くときは、携帯電話・警報ベル等を持参する
10月	不審者侵入	園庭より侵入したことを想定し、子どもの安全確保をしながらマニュアルに沿って避難する	・子どもたちに不安感を持たせず移動させる
11月	園開放 未就園児親子への啓蒙	保育園の不審者対応について知らせる	・不審者侵入防止のために保育園が行っている体制について説明を行い、理解と協力をお願いする
12月	誘拐や連れ去り	さまざまな場面を想定して子どもたちと共に考えながら知らない人に声をかけられたらどうするかを考える	・紙芝居やペープサート等を使ってお話の中のこととして、不安を持たせないように配慮する。
1月	不審者侵入 (延長保育時)	玄関より侵入したことを想定し、子どもの安全確保をしながらマニュアルに沿って避難する	・子どもたちに不安をもたせないよう配慮する ・担任にかかわらず近くにいる保育者の指示に従うよう指導する
2月	安心・安全について再確認する	い か の お す し を再確認する (行かない・乗らない・大声を出す・すぐ逃げる・知らせる)	・特に、年長児は就学を控えひとりで行動する機会が増えるため安心・安全の理解を深める
3月	対応マニュアルについて検討	今年度の取り組みについて反省評価をする	・不審者対応について問題点が「ないか話し合い次年度に繋げていけるようにする

## 不審者対応防犯訓練実施記録簿

園長		主任		担当		実施 月日	平成 年 月 日 ( )	天候( )	午前・午後 時 分 ~ 時 分
参加人員			児童 名 職員 名 計 名						
不審者想定			園児への安全教育・園内暗号の周知訓練・通報連絡訓練・不審者侵入 保育園外での不審者・その他( )						
ねらい									
使用避難用具									
訓練当日の 状況想定  (想定図も記入)									
実施状況									
評価  反省									
回覧 (印またはサイン)									

\* 不審者想定欄は、該当する箇所にすべて○を付けてください。

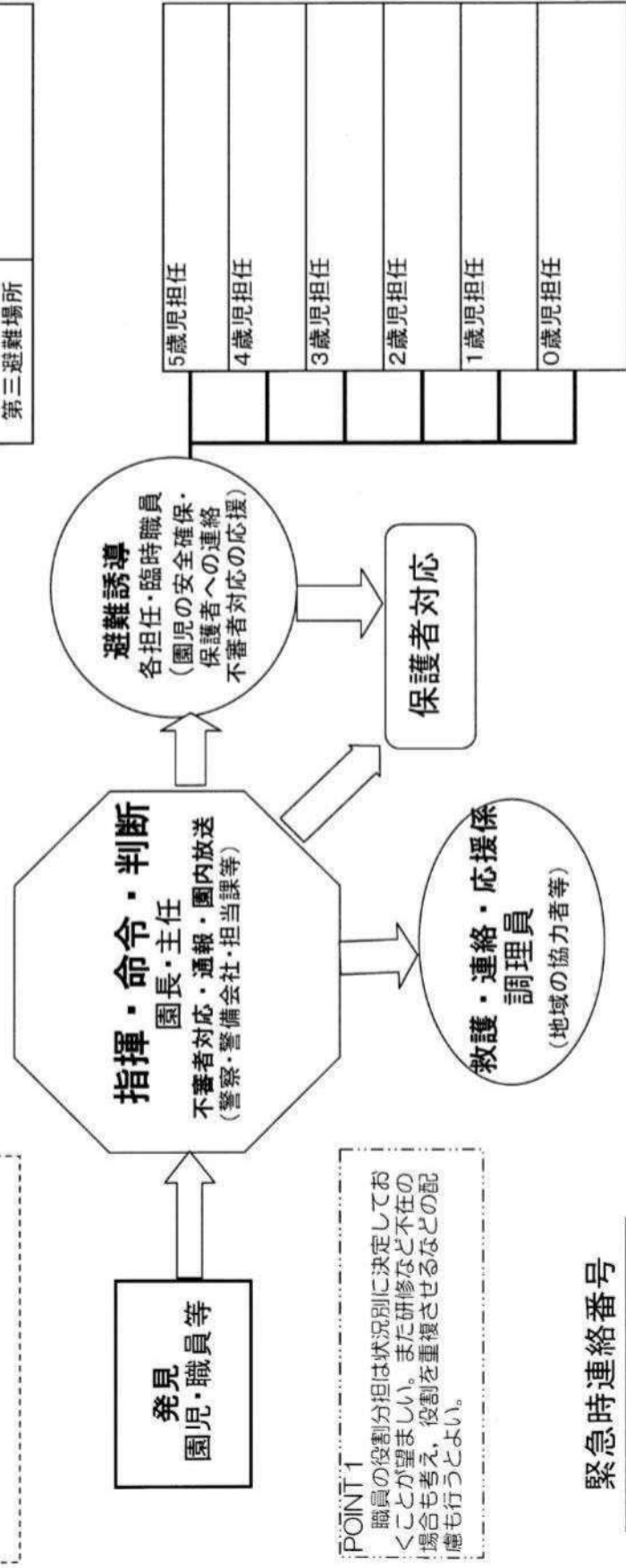
# 不審者対応役割分担表(例)

保育園

想定される場面

職員の協力体制・役割確認

避難場所	
第一避難場所	
第二避難場所	
第三避難場所	



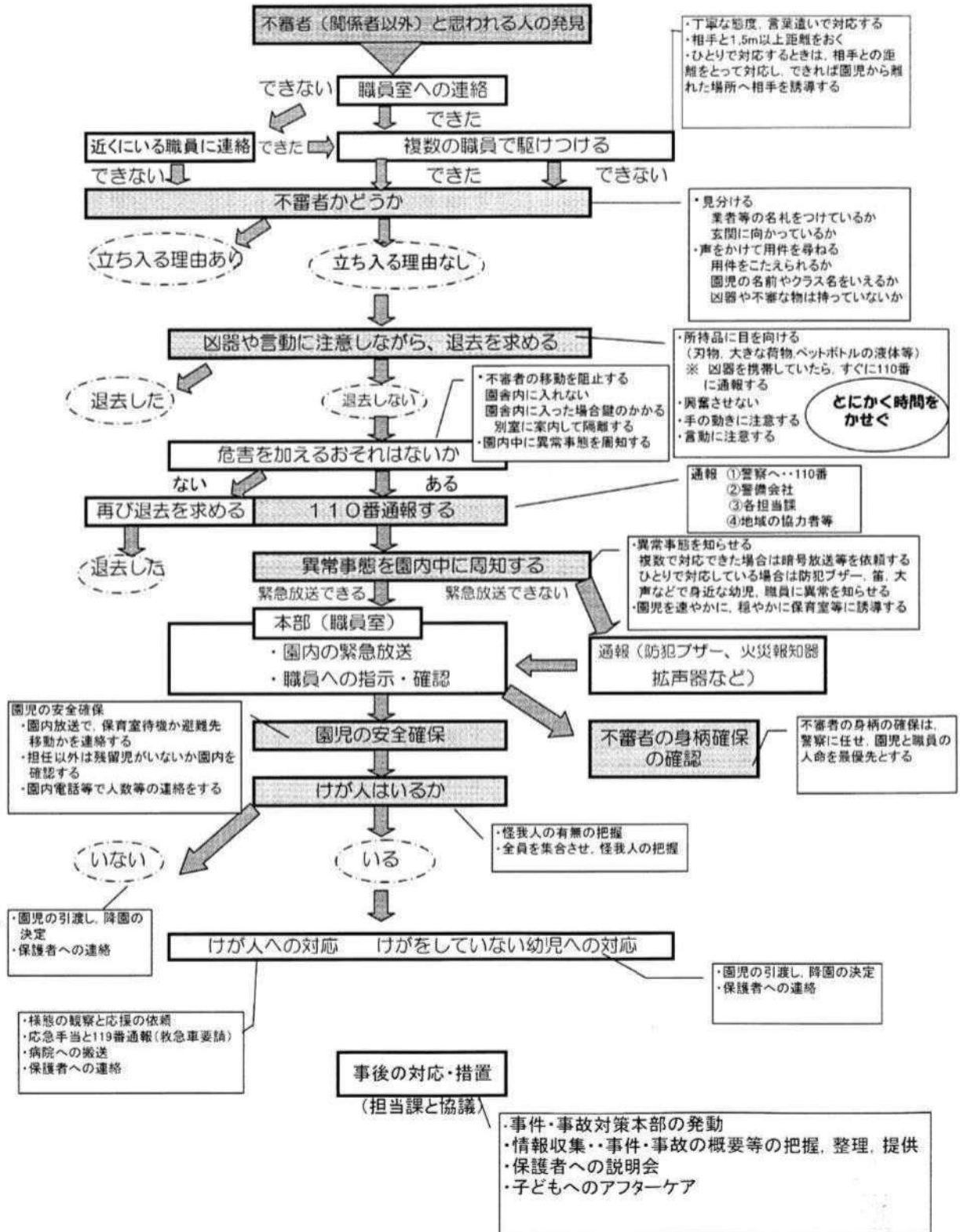
POINT 1  
職員の役割分担は状況別に決定しておくことが望ましい。また研修など不在の場合も考え、役割を重複させるなどの配慮も行うとよい。

## 緊急時連絡番号

警察	110番
消防・救急	119番
最寄りの交番	
警備会社	
担当課(直通)	

POINT 2  
不審者侵入の事実を迅速に周知する一方、不審者を刺激しないよう配慮する。園内放送等も事前に決めておいた暗号などを用いることが望ましい。  
(例)「お知らせします。裏門で電気工事が始まります。皆さんは先生と一緒に、〇〇組に集まりましょう。」  
\*実際に工事のあることは事前に伝えてはいるが、工事の場所は不審者のいる場所を示す。

# 不審者への緊急対応の流れ



不審者対策チェック表      平成 年 月 日      保育園

	チェック項目	主な担当者	チェック
施設設備	<b>不審者侵入を未然に防ぐための必要な対策を講じている</b>	園長	
	①保育園の出入り口等の門以外に、不審者が侵入しやすい場所、潜みやすい場所はないか点検し、必要な対策を取っている		<input type="checkbox"/>
	②出入りの門や玄関等にはインターホン、オートロック等が整備されている		<input type="checkbox"/>
	③来園者には必ず受付（職員室）をとおるようにしてもらっている		<input type="checkbox"/>
	④各保育室やホールなどに、不審者侵入を防ぐ内鍵がつけられている		<input type="checkbox"/>
⑤警備員や警察が駆けつけるシステムである小型通報装置を設置している	<input type="checkbox"/>		
組織・体制	<b>不審者対応マニュアルは、保育園独自のものになっている</b>	全職員	
	①マニュアルには事前対策、緊急時対策、事後対策ができています		<input type="checkbox"/>
	②不審者侵入の想定を園児の活動内容や時間帯によって、または不審者の侵入場所など様々な場合を想定している。		<input type="checkbox"/>
	③緊急時における職員の役割内容、分担が明確になっている		<input type="checkbox"/>
	<b>不審者侵入を未然に防ぐための職員の行動を確認している</b>		
	①職員が来園者に必ず挨拶や声かけをしている		<input type="checkbox"/>
	②意識的、組織的に園庭や園舎内の巡回をしている		<input type="checkbox"/>
	③防犯ブザー、笛等を携帯している		<input type="checkbox"/>
	④不審者から職員が身を守るための防護盾等の用具を備え確認している		<input type="checkbox"/>
	<b>不審者侵入防止に対する保護者・地域・関係機関との連携がとれている</b>		
	①不審者侵入防止のための保育園の体制を保護者・地域の人に周知し、理解を得るための依頼をしている		<input type="checkbox"/>
	②警察や消防などの関係機関との連携を強化し日頃から緊急時の対応		
	③多数の外部者が来園する行事等の場合に、職員が受付や園内巡回等実施している		<input type="checkbox"/>
	<b>保育園外での不審者に対する体制がとられている</b>		
	①保育園周辺の安全確保のため、保護者・地域・警察等関係機関に協力を依頼している		<input type="checkbox"/>
②近隣に不審者の情報があった場合、園児の安全確保、保護者への連絡体制、登降園時の安全対策ができています	<input type="checkbox"/>		
③園外保育時は通行予定の経路や目的地における安全面での再点検を行うと共に緊急時における避難場所、連絡場所などマップを作成するなど対応している	<input type="checkbox"/>		
<b>職員会議で安全対策について、定期的話し合いをしている</b>	園長・主任	<input type="checkbox"/>	
教育・訓練	①緊急事態が発生した場合、職員が具体的にどのような行動をとるべきか、防犯訓練を実施している	園長・主任	<input type="checkbox"/>
	②不審者から自分の身を守るための防犯教室等を開催し、保護者と共に学ぶ機会を設けている		<input type="checkbox"/>
	③子どもの発達段階に応じて危険に遭遇したばあいの具体的な対応について指導している		<input type="checkbox"/>
その他	①子育て支援として園開放しているとき来園している未就園児親子に対して、不審者侵入防止のための保育園の体制を知らせ、理解を得るための機会を設けている	園長・主任	<input type="checkbox"/>
	②開放部分と非開放部分を明確化し、安全管理の徹底をしている		<input type="checkbox"/>

\*施設・設備欄の③については、施設により不可能のところもあるのでチェック欄に斜線を引いてください。

\*各項目ごとに空欄を設けましたので、各園での取り組みを入れてください。

不審者対応防犯訓練用チェックリスト 平成 年 月 日 保育園

	チェック項目	Check
初期対応	1 発見者の侵入初期対応（侵入防止、退去等）できたか	<input type="checkbox"/>
	2 不審者の子どもへの接近を防止できたか	<input type="checkbox"/>
	3 子どもへの避難誘導等の指示はできたか	<input type="checkbox"/>
	4 発見者から園長・主任への初期連絡はできたか	<input type="checkbox"/>
	5 不審者の状況把握はできたか	<input type="checkbox"/>
	6 負傷者の有無は把握できたか	<input type="checkbox"/>
	7 負傷者の状況把握（出血、意識、呼吸等）確認できたか	<input type="checkbox"/>
通報連絡	8 園長・主任への緊急連絡、状況報告はできたか	<input type="checkbox"/>
	9 警察への緊急出動要請はできたか	<input type="checkbox"/>
	10 消防署への救急車緊急出動要請はできたか	<input type="checkbox"/>
	11 市役所、区役所、近隣学校、地域関係者への緊急連絡はできたか	<input type="checkbox"/>
緊急事態対応防犯体制	12 緊急事態発生状況の把握はできたか	<input type="checkbox"/>
	13 全職員への情報伝達はできたか	<input type="checkbox"/>
	14 緊急事態対応防犯体制はとれたか	<input type="checkbox"/>
	15 通報・連絡体制はとれたか	<input type="checkbox"/>
	16 避難誘導等の指示はできたか	<input type="checkbox"/>
	17 子どもへの注意喚起はできたか	<input type="checkbox"/>
	18 情報の収集はできたか	<input type="checkbox"/>
	19 情報の集約、経過に沿っての記録はできたか	<input type="checkbox"/>
	20 二次被害の対策はとれたか	<input type="checkbox"/>
	21 職員の緊急活動での役割は果たせていたか	<input type="checkbox"/>
	22 報道機関への対応窓口は一本化できたか	<input type="checkbox"/>
救急救護体制	23 負傷者の状況把握はできたか	<input type="checkbox"/>
	24 負傷者の応急手当はできたか	<input type="checkbox"/>
	25 救急活動に関する緊急連絡体制はとれたか	<input type="checkbox"/>
	26 救急活動での状況報告、連絡体制はとれたか	<input type="checkbox"/>
	27 園医への連絡、協力要請はできたか	<input type="checkbox"/>
	28 負傷者に関する記録はできたか（氏名、搬送先等）	<input type="checkbox"/>
	29 救急車への職員付き添い搬送はできたか	<input type="checkbox"/>
	30 医療機関への付き添い者からの状況報告・記録はできたか	<input type="checkbox"/>
連絡体制	31 市役所・区役所等への緊急連絡はできたか（初期・逐次報告）	<input type="checkbox"/>
	32 保護者への連絡体制はとれたか	<input type="checkbox"/>
	33 保護者への連絡はできたか	<input type="checkbox"/>
	34 子どもの保護者への引き渡し体制はとれたか	<input type="checkbox"/>
全体	35 安全管理に関するマニュアル等は機能したか	<input type="checkbox"/>
	36 緊急対応方針は決定できたか	<input type="checkbox"/>
	37 状況全体の記録はできたか	<input type="checkbox"/>

\* 訓練に応じ、不必要な項目は斜線を引いて使ってください。

## ヒヤリ・ハットの記録について

### ～ 事故を未然に防ぐために ～

子どもは、遊びを通して身体的・精神的・社会的に成長する。そして成長・発達過程で環境に対して様々な働きかけを行い、学習する。しかし子どもの行動は、判断力や安全に対する認識が未熟なために、様々なリスクを内包している。

職員は、子ども一人一人を十分理解するとともに、健全な発達を遂げるに必要な環境を整備し、いつでも事故が生じる可能性があることを念頭において、事故防止策に取り組んでいかなければならない。

各保育園においては、頻度の多い怪我に注目し、応急手当や事故を防ぐ方法を参考に、各事故のシュミレーションや話し合いを十分に行うことでスムーズに、それらに対応できるようにする。

また、危険回避としての体づくり、運動遊びの取り組みは身のこなしアップに繋がるので継続した取り組みが有効である。

保育士は、常に事故回避のために、仕事の優先順位を決め行動をするとともに、各園にあったやり方（ヒヤリ・ハットの記録の方法や、子どもや保護者への対応についてなど）を職員で話し合い、共通の認識を持つことが重要である。

### ヒヤリ・ハットとは・・・

「ひやり」としたり「はっと」した、事故には至らない体験のこと  
(事故を未然に防ぐことが目的であって、子どもから遊びを取り上げるものではない)

## ヒヤリハットの記録

保育園

園児名		クラス	組	男・女	記入者名				
発生時	年 月 日 ( )		午前・午後		時	分			
発生場所	保育室 遊戯室 テラス 玄関 園庭 道路 園外保育先 その他( )								
部位	頭 顔面(眼 鼻 耳 口腔 歯)			その他の顔面( )					
	上肢 下肢 体幹(頸 胸 腹 臀部)			その他の体幹( )					
体験したこと				発生時の状況及び対応					
1	転倒	1	押される						
2	ぶつかる	2	蹴られる						
3	転落	3	噛まれる						
4	飛び降りる	4	引っ張られる						
5	挟む	5	ぶたれる						
6	火傷	6	ふざける						
7	ひねる	7	ひっかかれる				そのときの職員配置及び状況		
8	切る	8	けんか						
9	誤 飲 ( )	9							
10	遊 具 ( )	10							
【略図】				保護者への対応					
				どうすれば防止できたか					
				その後、改善工夫したこと					

閲覧 (印またはサイン)



# 体力作り年間計画

平成 年度

・体力作り年間計画（記載例）

・四季折々の自然の中で体を使って遊んだり、散歩をして体力をつける  
 目標： いろいろな道具や用具を使って、運動あそびを楽しむ

年齢	ねらい	活動内容	環境構成及び配慮
0歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者とふれあい遊びを通してそれぞれの月齢と発達に合った体を使った遊びを楽しむ</li> <li>・体調の変化に気を配りながら、園庭や園の近所を散歩しながら、自然を感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃを使って、寝返りや寝ばいでの遊びを誘った</li> <li>・はいはいを促したりする</li> <li>・保育士のおおなかの上により登らせたり、滑り台</li> <li>・にらめっこなど全身の動きを誘う</li> <li>・園庭や近所を歩いたりベビーカーで散歩を楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃは口の中に入れておけるので常に清潔に保つ</li> <li>・歩道に落ちた棒し方を通して情緒の安定を図りながら自然な形で体を使った遊びに誘う</li> <li>・気候や一人ひとりの体調に配慮し健康で気持ちよく過ごさせるようにする</li> </ul>
1歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭遊びや散歩など戸外であそぶ時間を多く持ち気持ちよく過ごす</li> <li>・保育者と友達と一緒に体を動かす遊びを楽しむ</li> <li>・音楽や歌に合わせて体を動かして楽しむ</li> <li>・食事、排泄、睡眠などの生活リズムを整えて一日を概観よく快適に過ごす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハギーや散歩カーに乗って出かけたり、園庭散歩や、滑り台などであそぶ</li> <li>・誘導ロープにつかまって歩く</li> <li>・音楽に合わせて、体操や踊りをする</li> <li>・巧技台・マットなどを利用し、上がる、滑べる、転がる、跳ぶなどの全身運動を楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの発達段階を把握して運動の仕方を工夫する（一人で歩く、手を引く、誘導ロープに捕まる、ハギーに乗せるなど）</li> <li>・前後の関節を十分に取り、つまずいたりぶつかったりしないようにする</li> <li>・園庭のすみずみまで行き、一緒に楽しめるものを見つけて無理なくできるように配慮する</li> <li>・子どもの興味や発想を大切にしながら、いろいろな動きを一緒に楽しめるよう柔軟性を持ってお応じていく</li> <li>・家庭との連絡を密にして体調を把握し、快適に過ごさせるようにする</li> </ul>
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や保育士と一緒に全身を使った遊びを楽しむ</li> <li>・体を使ったジャンプ遊びを楽しむ</li> <li>・自然に触れて遊ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使った遊びを楽しむ</li> <li>・戸外遊びや散歩を楽しむ</li> <li>・園庭遊びや散歩</li> <li>・簡単な曲やリズムに合わせて体を動かして遊ぶ</li> <li>・季節の遊びを楽しむ（泥んこ・水遊び・落ち葉拾い・雪遊び）</li> <li>・ごっこ遊びや簡単な集団遊びを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの発達段階を把握して楽しく遊びが発展するよう環境を整える</li> <li>・いろいろな運動遊びに挑戦しようとする気持ちを大切にしながら安全に遊べるよう十分に配慮する</li> <li>・散歩は一人ひとりの歩くペースを考慮し、無理のないように行う</li> <li>・固定遊具の使い方を知らせ危険のないよう安全に遊べるように配慮する</li> <li>・簡単なルールを取り入れ遊びかけごとをしたり、繰り返しのある集団遊びを取り入れ楽しめるようにする</li> </ul>
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊具・用具を組み合わせて、全身を使って遊ぶ</li> <li>・戸外で思いっきり体を動かして遊ぶ</li> <li>・散歩や遠足など自然に触れて遊ぶ</li> <li>・友達や保育士とゲームやリズム遊びを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定遊具や砂場、安全な遊具のかけっこ、鬼ごっこ、戸外遊びや散歩、遠足を楽しむ</li> <li>・簡単なゲームやリズム遊びを楽しむ</li> <li>・季節の遊びを楽しむ（フール・歩き遠足・いもほり・雪遊び・サーキットゲーム・正月遊びなど）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な遊びが発展するように園内外の遊具や玩具の安全に配慮する</li> <li>・日々の遊びの中で無理なく取り入れていく</li> <li>・一人ひとりの興味や関心、自分から表現しようとする気持ちが育つよう配慮する</li> <li>・それぞれの季節を気持ちよく快適に過ごさせるような環境の整備と工夫をする</li> </ul>
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者と友達と一緒に戸外遊びや散歩を楽しむ</li> <li>・友達と一緒に全身を使って運動遊びを楽しむ</li> <li>・ゲームやリズム遊びを楽しむ</li> <li>・ルールのある遊びを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭の固定遊具を安全に使って遊ぶ</li> <li>・友達と散歩や簡単なゲームのかけっこ、鬼ごっこ、サッカーなどを楽しく遊ぶ</li> <li>・マット運動や鉄棒、ボール、なわとび、サーキットゲームなど遊具を使って遊ぶ</li> <li>・いろいろな曲に合わせて踊ったり、表現したりする</li> <li>・季節の遊びを楽しむ（フール・歩き遠足・いもほり・雪遊び・正月遊びなど）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが自分から遊びに取り組み始めるように環境を構成し、ひとり一人の遊びや気持ちの変化を把握して必要に応じて環境を変化させる</li> <li>・さまざまな運動遊びに意欲的に取り組めるよう、適切な介助や言葉かけをする</li> <li>・園庭のペースを大切にしながら頑張りや達成感を感じて自覚へとつなげていく</li> <li>・保育者も一緒に表現遊びを楽しみながら体を動かす楽しさを共有する</li> <li>・運動しやまじ時間や散歩を促さず戸外でのびのびと体を動かす、運動機能を高めるようなあそびを工夫する</li> <li>・いろいろな遊びが十分に楽しめるように遊具を用意すると共に遊びの場を整えておく</li> </ul>
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に戸外遊びを楽しむ</li> <li>・園庭遊び、園外散歩を楽しむ</li> <li>・リズム遊びやさまざまな運動遊びを楽しむ</li> <li>・ルールを理解して友達と運動遊びを楽しむ</li> <li>・用具を使った遊びを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おにごっこなどルールのある遊びを楽しむ</li> <li>・様々な用具や遊具を使い切り切り動かして遊ぶ（サーキット・リレー・サッカー・縄跳び、ボール、鉄棒、リズムゲームなど）</li> <li>・季節の遊びを楽しむ（フール・歩き遠足・いもほり・雪遊び・正月遊びなど）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通のルールを理解して集団での遊び、体を十分に使った遊びを工夫する</li> <li>・考えながら（友達と相談しながら）行動する遊びの提案をする</li> <li>・大好きな曲に合わせて集まり、並ぶ、跳びなど原動力を繰り返したり、簡単なルールのある遊びをすること、楽しく運動経験を重ねられるように工夫する</li> <li>・遊びの中に体力、リズム感、空間認知能力等を養う運動を取り入れる工夫をする</li> </ul>